

# 安全報告書

# 2021

KEISEI SAFETY REPORT



京成電鉄





# 京成グループ理念

## グループ経営理念

京成グループは、お客様に喜ばれる良質な商品・サービスを、安全・快適に提供し、健全な事業成長のもと、社会の発展に貢献します。

## グループ行動指針

(安全) 私たちは、安全・安心を第一に行動します。

(接客) 私たちは、あいさつを励行し、お客様の立場にたって行動します。

(成長) 私たちは、絶えず自己革新し、新たな価値を創造します。

(企業倫理) 私たちは、すべての人を大切にし、法令・規則を遵守します。

(環境) 私たちは、自然環境に配慮し、行動します。

## グループスローガン

いろんな笑顔を結びたい 京成グループ

## 目次

- ご利用の皆さまへ・・・P 1
- 2020年度安全方針・目標・重点施策・・・P 2
- 2020年度安全対策への投資・・・P 3
- 安全管理体制・・・P 3
- 駅の安全性の向上・・・P 6
- 踏切の安全対策・・・P 8
- 気象災害への対応・・・P 10
- 鉄道施設と列車の安全・・・P 11
- 地震・異常気象時における列車の運行基準・・・P 12
- 教育・訓練等・・・P 14
- その他の対策・・・P 21
- 感染症対策の推進・・・P 22
- 情報提供の充実・・・P 24
- 輸送の安全の実態・・・P 25
- 人にやさしい鉄道を目指して・・・P 27
- 沿線地域との交流・・・P 28
- お客様へのお願い・・・P 29
- 安全報告書へのご意見募集・・・P 30

## □ ご利用の皆さまへ

いつも京成電鉄をご利用いただきまして、誠にありがとうございます。

当社では、「安全・安心」を第一に行動することを京成グループ行動指針に掲げ、輸送の安全の確保を最大の使命と認識し、事業運営にあたっております。私自身も社長に就任以来、「安全が全ての根幹である」ことを念頭に置き、自らが先頭に立ち、安全・信頼性向上に向けた施策を進めております。

さて、2020年度は安全目標に「安全管理体制の強靱化」を掲げ、全社員が一致協力して、安全対策を精力的に実施いたしました。具体的には、法面補強工事や耐震補強工事、葛飾区内（四ツ木駅～青砥駅間）の連続立体交差事業など、安全対策投資を継続して行いました。また、踏切やホームの安全対策として、社員が定期的に踏切やホームの巡回・警備を行うことで、事故の未然防止に努めました。更に、大規模水害等の異常時を想定した訓練の実施や安全教育の拡充にも取り組みました。

一方で昨年度は、2020年6月12日、青砥駅構内列車脱線事故により、長時間にわたり運転を見合わせるという大規模な鉄道運転事故を発生させ、ご利用のお客様をはじめ関係の皆様に多大なるご迷惑とご心配をおかけいたしました。この事象を振り返り、再発防止に向けた必要な対策を直ちに実施するとともに、得られた教訓を生かしながら安全を追求する体制の更なる強靱化に取り組んでおります。

また、新型コロナウイルス感染症の対応では、本社内に対策総本部を設置し、国土交通省や地方自治体等と連携し、お客様が安心して当社をご利用できるよう数々の感染防止策を推進しております。

現在、当社グループは2019年度からスタートさせた3年間の中期経営計画「E4プラン」に基づき、耐震補強や法面補強等、自然災害に強い鉄道施設の整備、駅ホーム上の安全対策の強化などに取り組んでおりますが、今後とも計画的な施設整備等を進めてまいります。

今も新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るっておりますが、鉄道運行の安全が脅かされることのないよう、今一度「安全・安心の徹底」を意識し、お客様に安全輸送を提供できるよう取り組んでまいります。

本報告書は、鉄道事業法第19条の4に基づき、主に2020年度に実施した当社の輸送の安全を確保するために講じた措置等について、皆様にご紹介するために作成いたしました。ぜひ、ご一読いただき、皆様の忌憚のないご意見、ご感想をお聞かせくださいますようお願い申し上げます。



京成電鉄株式会社  
代表取締役社長  
小林 敏也

# 2020年度安全方針・目標・重点施策

2020年度は中期経営計画「E4プラン（2019～2021年度）」の2年目にあたります。当計画では、「安全かつ安心なサービスの提供」を鉄道における基本方針の一つとし、基本戦略として「安全・安心の確保並びにサービス品質の向上」に努めました。上記に基づき、2020年度は以下の通り、安全方針・安全目標・安全重点施策を定め、具体的な取り組みを実施しました。

## ◆安全方針

「京成グループ経営理念」・「京成グループ行動指針」

## ◆安全目標

安全目標

安全管理体制の強靱化

## ◆安全重点施策

安全目標「安全管理体制の強靱化」

安全重点施策

- (1) 異常時対応力の強化
- (2) 自然災害・機器故障・テロ・感染症等の未然防止
- (3) 鉄道施設・車両の保安度向上
- (4) 駅施設における安全性向上
- (5) 部門横断的な協力・連携体制の更なる強化
- (6) 外部関係機関・地域社会との連携強化
- (7) お客様への情報提供の充実
- (8) 安全文化の定着と知識・技術の継承に向けた教育等の充実
- (9) 事故・ヒューマンエラー・ヒヤリハット情報の効果的な活用



## 2020年度安全対策への投資

2020年度は、お客様により安全・快適にご利用いただけるよう、鉄道施設の耐震補強工事・法面補強工事の推進などの安全対策の強化、駅施設のリニューアルやバリアフリー化工事などのサービス向上に取り組みました。

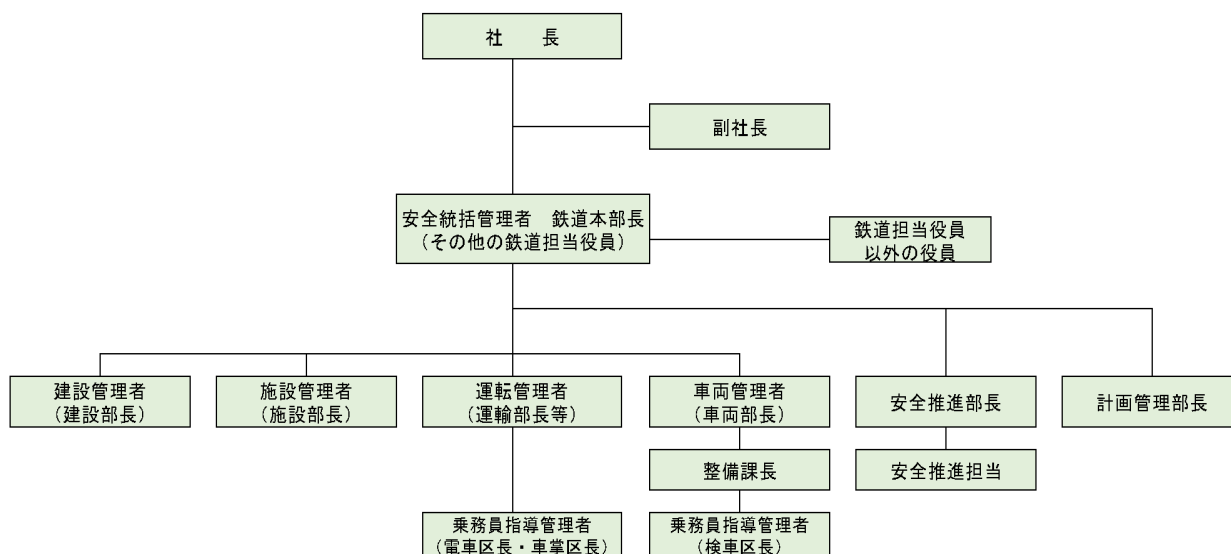
鉄道事業設備投資総額・安全投資額(実績) (単位: 億円)

	2018年度	2019年度	2020年度	3カ年合計
設備投資総額	191	217	160	568
安全対策投資	118	145	144	407

## 安全管理体制

当社では、2006年10月に「安全管理規程」を制定し、社長をトップとする安全管理体制を敷いています。

### 体制図

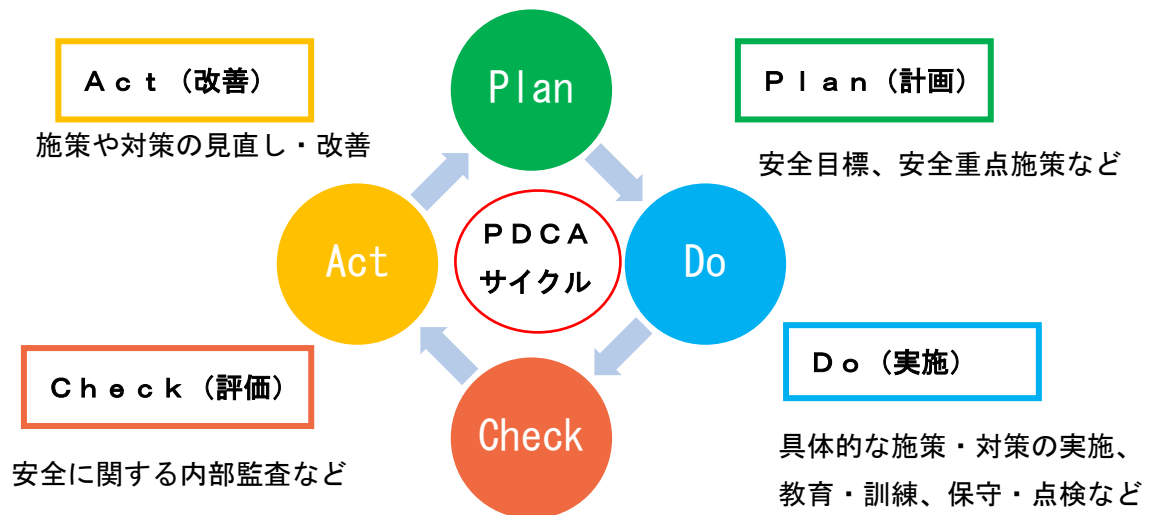


### 主な安全管理者の役割

社長	輸送の安全の確保に関する最終的な責任を負います。
安全統括管理者	輸送の安全の確保に関する業務を統括します。
運転管理者	安全統括管理者の指揮の下、運転に関する事項を統括します。
乗務員指導管理者	運転管理者又は車両管理者の指揮の下、乗務員の資質の保持に関する事項を管理します。

## ◇ 安全管理方法

安全方針および安全目標のもと、輸送の安全を確実に確保・向上させるために安全統括管理者を中心にPDCAサイクルにより安全管理体制を強化するように取り組んでいます。特にCheckとActに力点を置いて取り組むことで、安全管理体制のスパイラルアップを図っています。



## ◇ 社長・安全統括管理者等による積極的な職場巡視

社長・安全統括管理者は、更なる改善点を探るため、随時、現場の第一線に出向き、輸送の安全確保の状況確認や係員とのコミュニケーションを図っています。



## ◇ 安全推進会議の開催

安全に関する様々な課題を議論し、方向性を決定する機関として、安全統括管理者を議長とする「安全推進会議」を毎月開催しています。





## 内部監査の実施

内部監査を実施し、監査計画に基づき、各部門においてPDCAサイクルが有効に機能し、安全管理体制が適切に運営されているかをインタビューおよび書類確認等により検証します。



## 緊急時対応体制

重大事故・災害が発生した場合は、対策本部を設置し、救護措置・復旧対策にあたる体制を構築しています。2020年度は、6月12日に発生した青砥駅構内列車脱線事故の際に対策本部を設置しました。また、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、2019年度より本社内に新型インフルエンザ等感染症対策総本部を設置しています。



## 運転状況の把握と情報発信

日々の運転状況（遅れ、事故、故障等）は「運輸指令日報」により、翌朝には鉄道本部内関係部署や安全統括管理者、社長まで報告されます。

運輸指令室には情報担当を配置し、通常運行に支障をきたす事象が発生した場合は、必要に応じさらに応援要員を派遣し、直ちに携帯メール配信により関係者に周知、速やかに対応する体制を整えています。運行情報は当社ホームページやツイッターを通じて公表・配信されるほか、ご利用のお客様に対しては駅の案内表示や運行情報ディスプレイから他社線の情報を含め提供されます。

また、京成線の運行情報等を提供する公式スマートフォンアプリ「京成アプリ」を無料で配信しています。「京成アプリ」では、京成線・北総線・芝山鉄道線内を走る列車の位置がリアルタイムに表示される「列車走行位置」情報のほか、運転見合わせ等の運行状況に関する情報がある場合にプッシュ通知でお知らせする機能が提供されます。さらに2019年度には京成アプリのバージョンアップを行い、運転見合わせ・遅延発生区間の表示や車両・駅の詳細情報の拡充を図りました。今後もお客様のニーズに応え、使いやすく、充実した内容となるよう更新していく予定です。

さらに、これら運行情報は多言語にも対応し、外国人のお客様へのご案内にも努めています（京成アプリは日本語のみ）。



HPにおける京成線運行情報画面



列車走行位置を提供する京成アプリ画面

# 駅の安全性の向上

## ◇ ホームドア

日本の空の玄関口となる成田空港駅において、多くの荷物をお持ちになる国内外のお客様の安全確保と利便性向上のため、2020年9月より全ホームにてホームドアの使用を開始しました。

2018年 2月	日暮里駅下りホーム
2018年12月	日暮里駅上りホーム
2019年 3月	空港第2ビル駅全ホーム
2020年 7月	成田空港駅3・5番ホーム
2020年 9月	成田空港駅1・2・4番ホーム



成田空港駅 5 番線



成田空港駅 5 番線ホームドア設置風景

## ◇ CPライン

ホーム先端に赤色系のラインを施し、転落防止の注意喚起を行っています（ホームドア・固定柵設置駅を除く全駅設置済み）。



## ◇ 列車非常停止装置

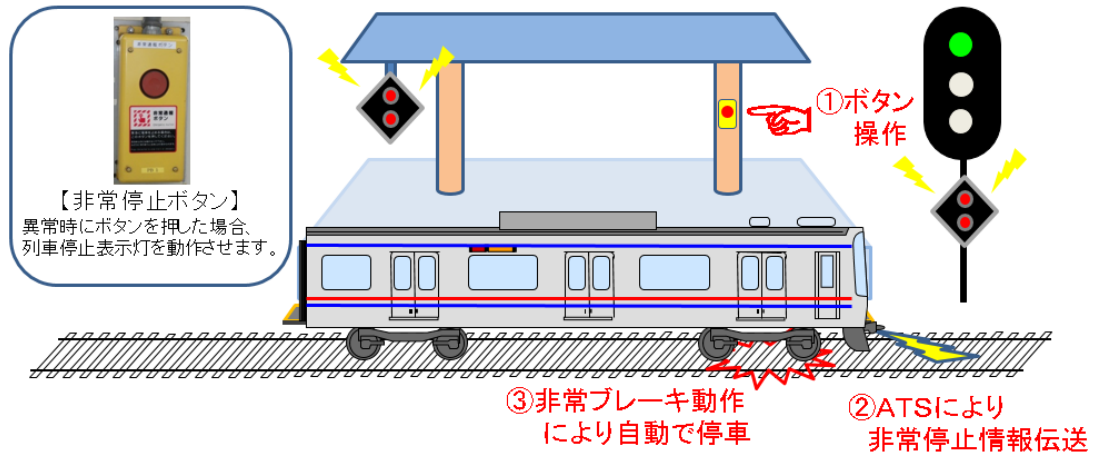
お客様が線路に転落した場合等の緊急時に、ボタンを操作することで停止信号現示とブザー鳴動により、付近の列車を停止させます。なお非常停止ボタンを目立たせるために、ゼブラ表示のシート貼付を順次行っています。





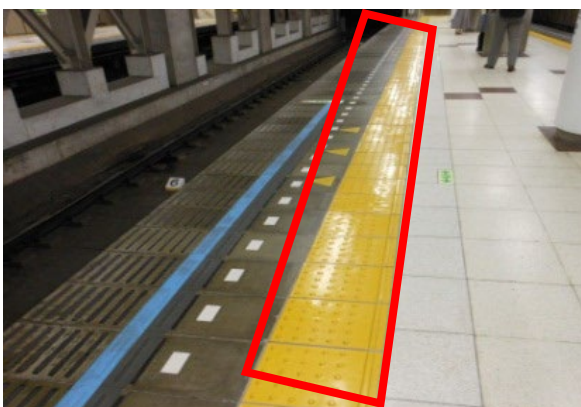
## ◇ 列車非常停止装置とATSの連動化

駅ホーム上の列車非常停止装置とATS（自動列車停止装置）との連動化工事が2019年度で全駅にて完了しました。連動化により、ホーム上のボタンが操作されると、運転士の非常ブレーキ操作の補助として、自動的に非常ブレーキが動作し、列車を停止させるようになりました。



## ◇ 内方線付点状ブロック

視覚に障害のあるお客様に対してホームの内外を知らせる「内方線付点状ブロック」の設置に取り組んでいます。ホームドア設置済駅を除く62駅中、2020年度末時点で53駅において設置が完了しております。引き続き、ホームおよびコンコースにおける点状・線状ブロックのJIS規格化工事にも取り組んでいます。



## ◇ ホームベンチの向きの変更

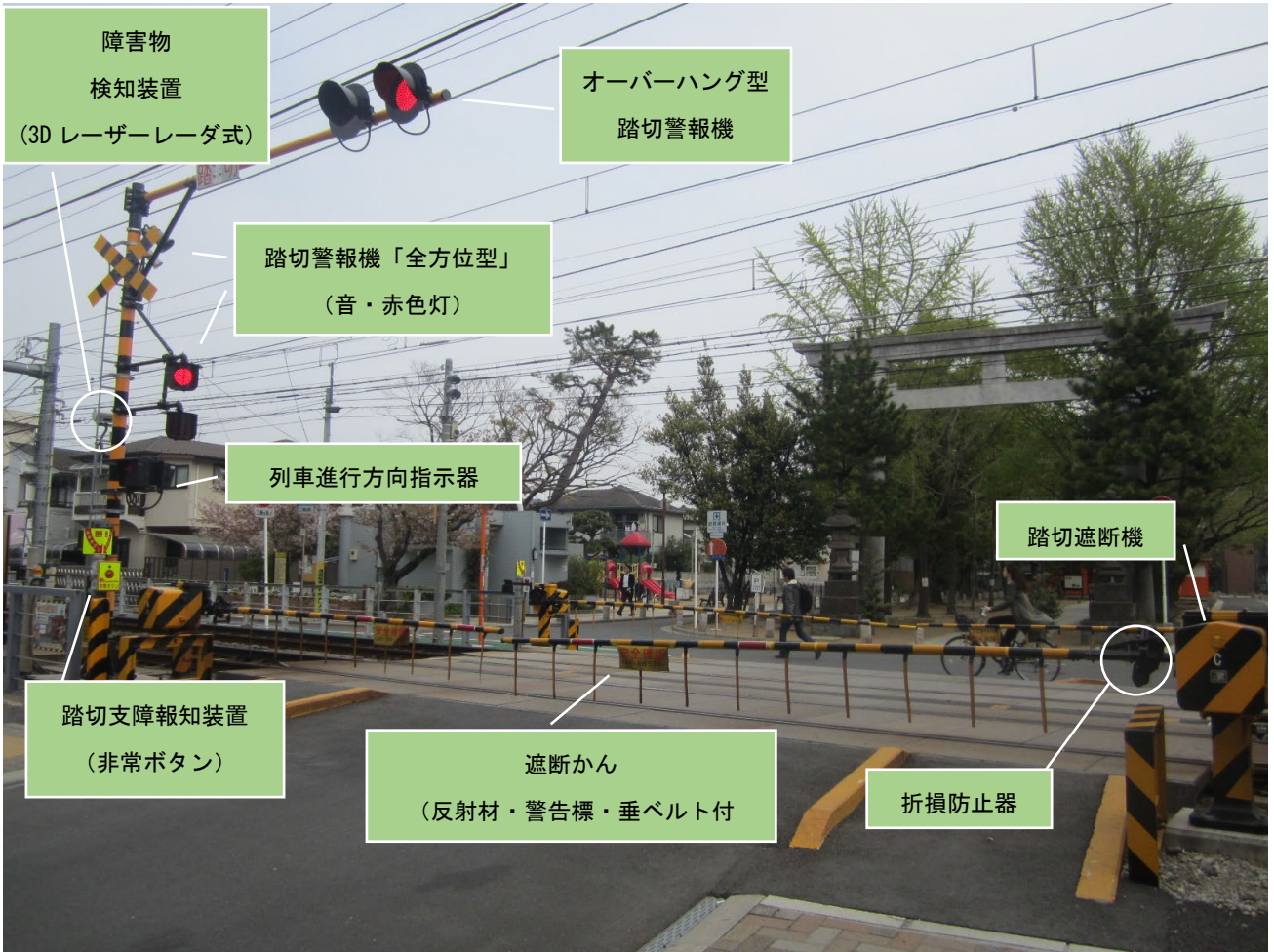
ホームのベンチを線路に対し、垂直に配置することで転落事故防止に効果があることから、順次ベンチの向きを変更しています。

2020年度末時点、京成全線において23駅にてホームベンチの向きの変更が完了しています。



# 踏切の安全対策

## 踏切の設備



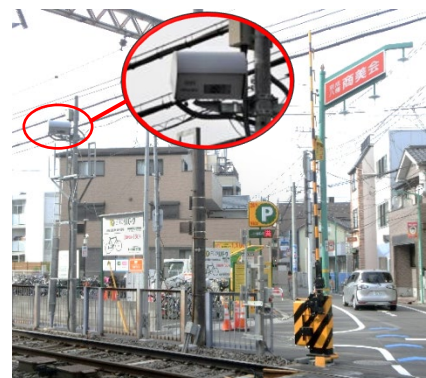
## 踏切支障報知装置

非常ボタンを操作することで、踏切道上で異常が発生していることを付近の列車の運転士に知らせます（全踏切道設置済）。



## 障害物検知装置

列車が接近してきた際に、踏切道内に支障物を検知した場合に、付近の列車の運転士に異常を知らせる装置です（自動車が通行可能な全128踏切に設置済）。検知機能を強化した高規格化の障害物検知装置の設置を進めており、2020年度末時点において、76踏切において設置が完了しています。





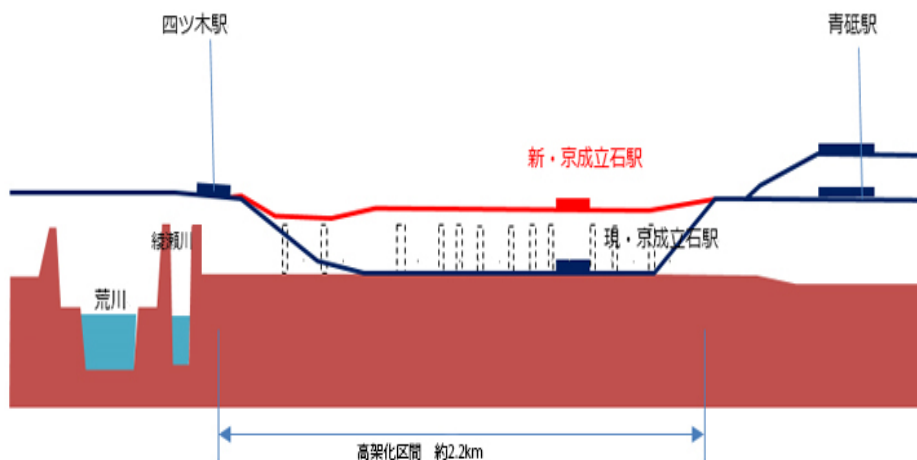
## ◇ 列車妨害対策

線路上に石等を置いたり、踏切非常ボタンを操作したりするなどのいたずらによる列車妨害に対処するため、監視カメラや立看板を設置しています。監視カメラにつきましては2009年度から順次設置し、170ヶ所の踏切道へ設置が完了しています。また、これらの監視カメラについてはネットワーク化により遠隔操作で速やかな画像確認も可能です。なお、地元警察と連携を強化したこともあり列車妨害の件数を減らすなどの効果が見られました。また画像の確認により関係先への事故防止の要請も行っています。



## ◇ 連続立体化工事

葛飾区内（四ツ木駅～青砥駅間）の連続立体交差事業を推進しており、2020年度は、仮下り線工事を実施しました。この事業が完了すると平和橋通りなどの沿線にある11ヶ所の踏切が除却され、道路・鉄道それぞれの安全性が一層向上するほか、踏切による交通渋滞が解消します。



## Topics

### 【踏切での事故防止に向けて】

堀切菖蒲園第1号踏切道は、直近2年間で人身事故が計3件発生しています。これを受け、同踏切道において心理的な鎮静効果があるとされる青色照明を設置しました。さらに一般社団法人「日本ののちの電話連盟」のご協力を得て、「いのちの電話」看板を設置しました。なお当社では、同踏切道を含めた沿線踏切道およびホームにおける事故の未然防止のため、駅係員や本社職員が定期的に巡回・警備に取り組んでいます。



# 気象災害への対応

## ◇ 耐震補強工事の実施

2011年に発生した東日本大震災を踏まえ、高架橋以外にも橋脚、トンネル中柱、駅などの構造物の耐震補強工事を実施し、地震に対する安全性の向上に努めています。

2020年度は、東中山駅の耐震補強工事が完了したほか、千原線高架橋の耐震補強工事に引き続き取り組んでいます。



耐震補強工事が完了した東中山駅



千原線高架橋耐震補強工事

## ◇ 法面補強工事の実施

鉄道線路の盛土部、掘割部の線路脇には法面と呼ばれる斜面が設けられます。大雨等によって、この法面が崩れる土砂災害を防止するため、コンクリートフレーム等を使用して補強工事を実施しています。2020年度は宗吾隧道起点方坑口の工事が完了しました。



## ◇ 倒木のおそれのある樹木の伐採

2019年秋の台風接近に伴う倒木による線路支障が京成全線に渡って相次いだことを踏まえ、平時から倒木のおそれのある樹木の伐採を計画的に推進しています。2020年度は宗吾隧道起終点両坑口付近の伐採を実施しました。





# 鉄道施設と列車の安全

## ◇ 車両や鉄道施設の点検・保守

安全・安定輸送を確保するために、車両や電気・信号設備、線路等の鉄道施設を法令に定められた周期・項目に基づき、検査を実施しています。

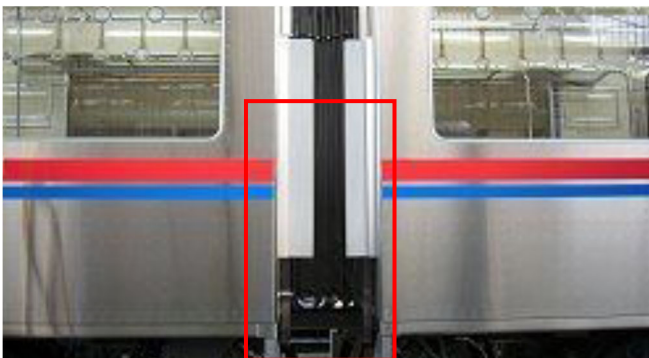
さらに各部門で実施している車両や鉄道施設の点検・検査に対して、法令に従って適正に行われているかを他部門による相互チェックを実施しています（定期検査履行確認）。



検査立会風景

## ◇ 車両間転落防止用ホロの設置

ホーム上のお客様が車両の連結部から線路に転落することを防止するために、車両連結部にホロを設置しています。2020年度末現在で、614両に設置し、設置率は100%です。



## ◇ 防犯カメラの設置

全駅構内およびスカイライナー全車両並びに一部の通勤型車両に防犯カメラを設置し、不審者等の監視をしています。また車両基地等においてもカメラ監視により警備強化しています。



スカイライナー



3100形

## Topics

### 【デジタル方式の列車無線の使用を開始】

2018年度より進めていました列車無線のデジタル化について、デジタル化に必要な地上基地局のすべてと車両の車上設備の一部の工事が完了したため、2021年4月17日より、工事が完了した車両より順次使用を開始しています。

列車無線は、列車運行を管理している運輸指令と列車乗務員との間の情報伝達のほか、事故・災害発生時等に異常を知らせる信号を発報し、周囲の列車を停止させ、事故の拡大を防ぐ役割をもつ重要な保安設備です。

列車無線のデジタル化により、より高品質な通話の実現と円滑な情報伝達が可能となり、異常時対応の迅速化を図ります。

未設置の車両についても工事を進め、順次デジタル方式の列車無線に切り替えを行ってまいります。





# 地震・異常気象時における列車の運行基準

近年、地震・台風・ゲリラ豪雨等の異常気象が発生しています。当社では計測器を沿線に設置し、情報収集を行っているほか、システム等を導入することで安全輸送に万全を期しています。

## ◇ 地震による運転規制

当社では大きな地震が発生した場合、右記の取り扱いを行い、安全運行を確保しています。

止まった列車の中でも地震の揺れを感じる可能性がありますので、お立ちのお客様は手すりやつり革にしっかりつかまり、揺れがおさまるのをお待ちください。その後、係員の指示に従うようお願いします。

※右記の震度は、京成電鉄独自の基準による震度を記載しています。



## ◇ 雨量による運転規制

当社では、列車の安全運行を確保するために、降雨量に応じた規制値を設け運転規制を行っています。



1時間あたりの降雨量、または降り始めからの総雨量が規制値を超えたとき  
(区間により基準は異なる)

速度を落として運転



1時間あたりの降雨量が運転休止を必要とする規制値を超えたとき  
(軌道流出や土砂崩れ等のおそれがあるとき)

運転休止

規制値以下を観測後、通常運行へ復帰

## ◇ 風速による運転規制

当社では、列車の安全運行を確保するために、風速に応じた運転規制を行っています。



## ◇ 異常時におけるお客様へのお願い

駅構内

異常発生時は、駅係員がご案内しますので、駅係員の放送に注意していただき、落ち着いて安全な場所へ避難してください。  
また、エレベーターのご使用はお控えください。

列車内

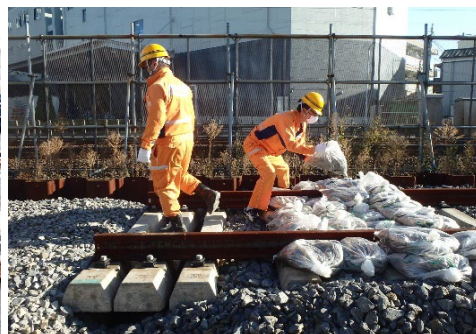
係員のアナウンスに従い、落ち着いて行動するようにしてください。  
また大変危険ですので係員の指示があるまでは、線路には絶対に降りないようお願いいたします。

## 教育・訓練等

### ◇ 異常時総合訓練

2020年12月22日に宗吾車両基地（千葉県酒々井町）および京成立石 - 四ツ木駅間仮下り線（東京都葛飾区）において、「年末年始輸送安全総点検」の一環として異常時総合訓練を実施し、当社社員・協力会社・合同で約160名が参加しました。

今回は、当社でこれまでに発生した重大な事象（列車脱線、保安装置故障）を想定し、お客様の避難誘導を含む異常時対応を再確認するとともに、2019年の台風被害を振り返り、今後予想される大規模な水害への対応力の向上を図るため、①台風による飛来物の巻き込みによる列車脱線、②信号機故障による駅間停車列車の発生とお客様の避難誘導、ならびに③荒川の水位上昇による越水、氾濫防止のための水防活動といった訓練を行いました。



## 社員の声



建設部建設課連立担当  
来田和也

私は異常時総合訓練において、荒川の水位上昇によって京成本線荒川橋梁線路部から越水・氾濫することを防止するため、線路上への土のう設置作業を実施しました。実際の有事の際には、足立区・葛飾区の職員の方が実施する作業にはなりますが、当社として本作業に要する負担や時間等を把握するために私たち社員で模擬実践しました。今回の訓練を通して得られた内容を関係機関に共有するとともに、日頃から有事の際に備えた情報連絡体制の確認や関係者の皆様との「顔の見える関係」づくりに努めてまいります。



## ◇ 非常召集訓練

事故発生時の正確な情報収集と的確・迅速な情報伝達を行う体制を確認するため、2020年7月31日早朝に非常召集訓練を実施しました。事故想定と列車の不通区間を設定し、伝達された情報をもとに所定の場所に集合し、到着時刻や状況に対する指示などを確認しました。

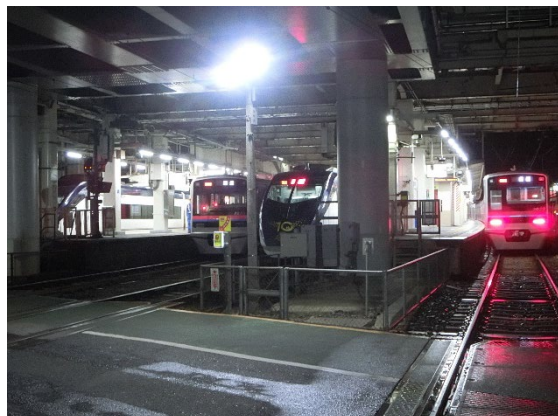


## ◇ 車両避難訓練/京成北総合同車両避難訓練

台風や大雨により河川が氾濫し、車庫内の浸水による車両への損害を回避するために、河川が増水した段階で事前に高台の場所へ車両を移動させるための車両避難訓練を2020年7月20日終車後に高砂車庫にて実施しました。これは、近年の自然災害頻発化・激甚化を背景に、国土交通省が「運輸防災マネジメント指針」を策定したことを踏まえ、自然災害への対応力強化のために実施したものです。

本訓練を通して車両を避難させる上で必要となる人員や時間について把握し、車両避難計画作成の参考としました。また異常時における関係者の動きや部門間の情報連携等も確認しました。

なお当社は北総鉄道株式会社と相互乗り入れを行っていることから、北総線内への避難場所の確認と両社間の情報連携体制の強化を目的に2020年12月10日に京成北総合同車両避難訓練を実施しました。



## 社員の声



高砂仕業検査職場・桑原英希

私は車両避難訓練において高砂車庫から駅へ列車を出庫する作業を担当しました。高砂車庫は江戸川洪水ハザードマップにおいて、浸水のおそれのある地域となっており、有事の際には車両の浸水を防ぐために避難させる必要があります。本訓練では、関係部署との調整や車庫から列車を避難させるための手順、必要な時間等の確認をすることができました。実際の場面では危機迫る状況下において、限られた時間・要員の中で対応しなければならないため日頃から訓練やシミュレーションを行い、自然災害に備えてまいります。

## ◇ 当社職員による開閉器交換作業

異常時対応力の強化と知識・技術の継承の観点から、通常は協力会社社員が実施している開閉器交換作業について、当社職員が2021年3月4日夜間に実施しました。限られた時間内で安全・正確な作業を行うことで、1人ひとりの業務に対する意識を高めることにつながることから、引き続き取り組みを進めていきます。



## ◇ エリアワーキング（地区別現業意見交換会）の実施

鉄道本部内の各部門間の連携強化を図るべく、エリアワーキングを実施しています。全線を大きく3つのエリアに分け、現業管理職を中心に安全啓発運動や教育・訓練、意見交換会等を自発的に行い、部門を越えた人間関係の構築を図っています。こうした取り組みを通して、安全・安心の鉄道運行に向けたセーフティーネットの拡大を図った結果、エリアごとの特徴ある安全推進活動や社員自らが事故防止を図る事例など、現場からの安全意識の向上がみられました。引き続き、安全意識のさらなる向上に向けて全社員で取り組んでまいります。

## ◇ 京成グループ技術発表会

京成グループ4社（京成電鉄・新京成電鉄・北総鉄道・京成電設工業）では、各社間の技術交流を目的とした京成グループ技術発表会を実施しています。実技による作業内容を発表し、相互に評価することで、技術力向上と連携強化を図っています。

2020年度においては、飛来物や倒木による列車支障復旧をテーマにトロリー線割入れを実施しました。



## ◇ 安全教習の実施

安全教習は、安全意識の更なる向上を目的として安全推進担当が講師となり、現業係員全員および請負社員を対象に実施しています。

2020年度は、運輸安全マネジメント制度を紹介し、安全管理体制の浸透に向けた教習を実施しました。



## ◇ 安全推進発表会の実施

現場における輸送の安全確保に関わる活動の積み上げによるボトムアップと部門間の情報共有を強化することを目的に、グループ会社も含めた安全推進発表会を実施しています。なお新型コロナウイルス感染症対策の一環として、2020年度は各職場の発表を事前に収録の上、後日審査員が視聴・表彰する方法に変更して実施しました。



## 社員の声



車掌区 平井指導担当助役

2020年度安全推進発表会において、車掌区では「安全最優先の車掌育成のために」をテーマに発表しました。過去に発生した触車事故を機に、全車掌を対象にアンケートを実施、車掌が危険を察知した際に操作する車掌弁（非常ブレーキ）を長年操作する機会がなかった車掌が多くいることが判明しました。そこで、研修所の車掌シミュレータを用いて実践的な訓練を全員に行い、いざというときに迷いなく車掌弁を操作し列車を停止できるよう再徹底しました。今後も、定期的に訓練を実施しPDCAサイクルのスパイラルアップを図ってまいります。今回、発表会に参加した他の職場の安全に関する取り組みを拝見させていただき、多くの気づきを得ることが出来ました。これらを区全体で共有し更なる安全・安定輸送の確保に取り組んでまいります。

## ◇ 安全講演会の開催

鉄道本部職員の安全意識の更なる向上を目的として安全講演会を実施しています。

2020年度は感染症対策の観点から京成グループ講演会の収録映像を視聴しました。視聴した京成グループ講演会は国際医療福祉大学教授の松本哲哉氏を講師に迎え、「新型コロナウイルス感染症の現状と取るべき対策」をテーマとした講演になっております。本講演映像の視聴を通して感染症対策に対する理解と安全意識の向上を図りました。



## ◇ 動力車操縦者（運転士）の養成

列車を操縦する運転士は、国家資格である「動力車操縦者運転免許」を取得して初めて運転が許されます。当社研修所は、国土交通大臣の指定を受けた指定養成所です。学科講習を4か月、運転士見習いとしての実車での技能講習を5か月、計9か月を経た後に行われる試験に合格した者が「動力車操縦者運転免許」を取得できます。また一連の講習では、正しい知識、技能だけでなく、当社を代表する自覚を持った乗務員とするため、規律訓練も実施しています。

さらに免許取得後、1・3・6年経過後に追指導教育を行い、安全意識・知識・技能のフォローアップに努めています。

また、当社所属車両と相互乗り入れする他社車両は連結器の形状が異なることから、異常時に連結が必要となった際に連結器の特殊取り扱いが必要となります。このため、2019年度に導入した連結器訓練教材を活用して異常時対応力向上に向けた訓練を実施しました。



運転シミュレータによる訓練



連結器訓練教材



規律訓練の様子

## ◇ 運転関係係員教育

当社では、運転士をはじめ、安全輸送を支える係員に対しても専門技能の習得や安全意識の向上を図るための教育訓練を実施しています。当社職員だけでなく、安全輸送を担う協力会社の管理者に対しても必要な教育等を実施し、技能保有状況を確認してから業務に就かせています。

現業長	管理職研修・職場内教育・ 運転取扱教育訓練・連動訓練
助役	監督者研修・職場内教育・ 運転取扱教育訓練・連動訓練
運転兼 駅務主任 信号士	運転取扱教育訓練・連動訓練 職場内教育
運転士	動力車操縦者養成 集合教育・少人数研修・追指導教育
車掌	集合教育・接遇研修・少人数研修・ 追指導教育
技術職	限定動力車操縦者養成・追指導教育 職場内教育・部門別集合教育 KYT(危険予知訓練)教習
協力会社	脱線復旧などの各種訓練 工事安全推進協力会 鉄道工事管理者講習会 安全講習会

## ◇ 乗務員の点呼

乗務員は、乗務前にアルコール検査を実施し、その後、監督者による点呼を受けます。点呼では、監督者が乗務員に指示・伝達事項を行い、乗務員の健康状態等を確認しています。



## ◇ 技術職のKYT（危険予知訓練）活動

鉄道施設・車両の保守部門では、作業を安全確実に実施するためにKYT活動を実施しています。KYT活動とは、作業前に危険要因を予知し、作業時に指差喚呼等によりヒューマンエラーを未然防止するものです。あわせてKYT活動の推進者となる「KYTトレーナー研修会」にも参加しています。



## ◇ 安全推進かわら版の発行

鉄道本部所属員向けに安全に関する情報を記載した安全推進かわら版を2011年4月より原則毎月発行し、安全意識の向上を図っています。

月	内容
4月	2020年度安全目標・主要テーマ
5月	「想像を超えた」を想像しよう - 2019年度マネジメントレビューを実施 -
6月	『事故の芽』育てていませんか？ - 青砥駅構内列車脱線事故発生 -
7月	水害から車両を守るために
8月	小さなチェックで、たしかな安全
9月	感染症対策に隙はありませんか？
10月	本線荒川橋梁河川増水時の安全確保に向けて
11月	「私たちの安全」をふり返ってみよう
12月	「私たちの安全」は私たちが創る
1月	力を合わせ、異常時対応
2月	職場の挑戦が安全を「カタチ」に
3月	地震！その後の対応は？

## 安全推進かわら版

12月号(No.115) -発行 2020.12.25-

**「私たちの安全」は  
私たちが創る**

事故やヒューマンエラーの原因の中に潜む「ミス」は何だったか。  
「ミス」をなくすために、今一度基本に立ち返ることが必要です。

**KSEI**

「基本動作」「作業手順」の意味を改めて考え、仲間と力を合わせ、「私たちの安全」を共に創っていきましょう。

2021年は事故・ヒューマンエラー<sup>ゼロ</sup>を実現する一年にしよう

「安全推進かわら版」発行者：京成電鉄株式会社 安全推進部 安全推進担当



## ◇ ヒヤリハット情報の表彰・活用

見過ごすと事故に繋がるおそれのある事象（事故の芽）を把握するため、各職場においてヒヤリハット情報を収集しています。また、2016年度よりヒヤリハット報告に積極的に取り組んだと認められる職場を表彰する表彰制度を導入し、持続的かつ自発的にヒヤリハット報告を促しています。さらに、2019年度にはヒヤリハット表彰規則の改正を実施し、ヒヤリハット活用職場賞を新設、ヒヤリハットの提出件数増加とヒヤリハットの有効活用に向けた意識づけを図っています。その結果として、前年比286件増となる1464件の報告があり、年度目標を達成しました。

## ◇ 事故・故障等減件目標達成職場の表彰

各部において事故・故障等を減らすための目標件数を設定し、目標達成に向けて取り組んでいます。目標を達成した職場に対し、鉄道本部長が表彰しています。

### Topics

#### 【2020年度優良ヒヤリハット活用職場賞】 触車事故防止に向けた列車待避訓練の実施

##### ●発生したヒヤリハットの概要

宗吾参道駅構内の線路上で軌道整備作業を実施していた際、列車が接近したため線路外へ待避したものの、作業員1名が事前のミーティングで決めていた場所と違う場所に待避してしまいました。

その作業員が列車通過後に作業位置に戻ろうとした際、別の線路から接近する列車に気付かず警笛を鳴らされましたが、待避することなく直前横断して作業位置に戻ってしまいました。

##### ●ヒヤリハットを受けた改善の取り組み

上記のヒヤリハットを受けて、作業を実施する際は事前に待避場所を確認し、作業開始前に列車待避訓練を行うこととしました。このような待避場所を身体に覚えさせる取り組みが評価された結果、優良ヒヤリハット活用職場賞の受賞に至りました。



列車待避場所の確認



列車待避訓練



## その他の対策

### ◇ お客様の避難・誘導対策

異常時においても、お客様を安全・安心に避難誘導できるよう、必要な備品を駅に配備しております。なお、2019年8月の青砥変電所停電事故を受け、列車降車用の非常梯子を全駅に増配備しました。さらに車両への非常梯子の増配備を2020年度より順次行っています。



### ◇ 駅における備蓄品

大規模災害時に帰宅が困難となったお客様や特に介助が必要と思われるご高齢のお客様、お身体の不自由なお客様などに向けた備蓄品を全駅に配備しています。



### ◇ 緊急時支援活動ワッペン

社員が通勤および私用で当社線を利用しての時に大規模災害や事故に遭遇し、急遽支援活動にあたる場合に使用するワッペンを全社員に配布しています。



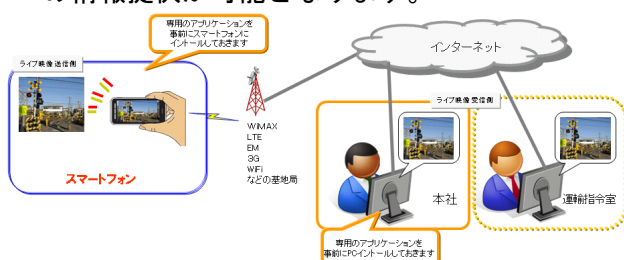
### ◇ 異常時応援者用腕章

大規模な輸送障害が発生した場合に通勤中の社員や駆け付けた本社社員がお客様誘導・案内等を行う際に、一目で当社社員であることが判別できるよう腕章を作成し、全駅に配備しています。



### ◇ 画像配信システム

災害や事故等発生時、動画で現場の状況を対策本部等に配信するシステムを導入しています。現場に派遣された社員が撮影した映像を映し出すことにより、正確かつ迅速な判断・処置やお客様への情報提供が可能となります。

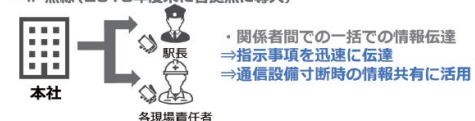


### ◇ IP無線・大型タッチディスプレイ

2018年度に発生した塩害による輸送障害において、情報共有の課題を受け、より確実な情報共有を迅速に可能とする設備の拡充として、IP無線と大型タッチディスプレイを導入しています。

情報共有のための設備導入に向け、トライアルと導入を進める。

・IP無線(2018年度末に各拠点に導入)



・大型タッチディスプレイ(2018年度末に導入)



# 感染症対策の推進(新型コロナウイルス感染防止対策)

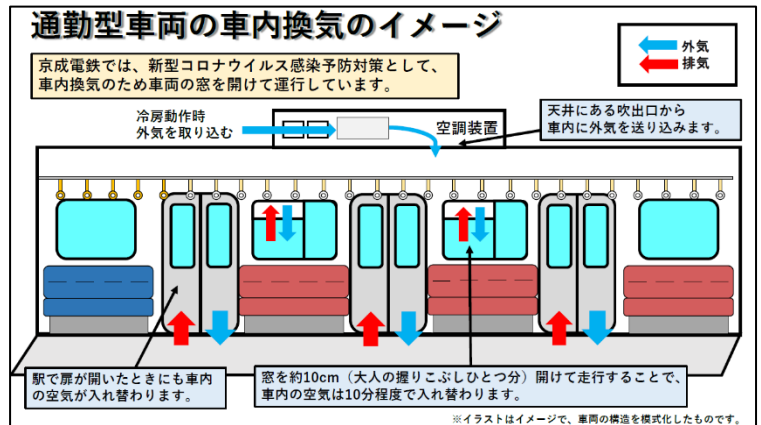
## ◆ 職員のマスク着用等

鉄道部門の全現業職員に対してマスク着用と手洗いの励行をはじめとする基本的感染予防の徹底を指示し、感染拡大防止に努めています。また駅の改札窓口では、対面での会話による感染防止のため、飛沫防止用シールドを設置しています。

## ◆ 車内換気の実施

通勤型車両では、列車出庫時および折り返し時に係員が、客室内の窓を一部開口し、車内換気に努めております。

またスカイライナー車両では換気装置により、常時車内換気を実施しています。



## ◆ 抗菌・抗ウイルス加工の実施

お客様が手を触れる箇所(券売機、エレベータ内、お手洗い、手すり、つり革、座席等)を中心に、抗菌・抗ウイルス加工を実施しています。

車両内には「抗菌・抗ウイルス加工済」ステッカーを掲示し、お客様が安心してご乗車いただけるように取り組んでいます。

## ◆ 駅構内・車両の消毒

駅構内・車両の定期清掃時において、券売機タッチディスプレイやつり革をはじめとしたお客様が直接触れる箇所の消毒を重点的に実施しています。

さらに新型コロナウイルス感染者の利用が判明した駅および車両については、速やかに消毒作業を実施し、感染拡大の防止に努めています。





## ◇ アルコール消毒液・せっけんの設置

お客様の感染予防の一環として、成田空港駅・空港第2ビル駅のカウンターにアルコール消毒液および全駅のトイレに手洗い用せっけんを設置しています。

## ◇ 空間除菌剤の設置

現業各職場およびスカイライナーの運転台に空間除菌効果のある二酸化塩素剤を設置し、感染拡大防止に取り組んでいます。



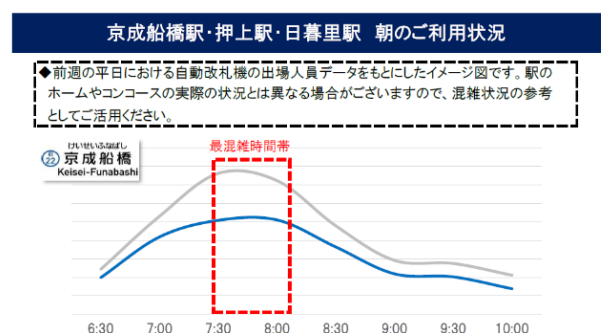
## ◇ 注意喚起・啓蒙活動の実施

駅構内および当社ホームページにおいて感染予防のための啓蒙ポスターの掲出を行っているほか、駅構内・車内放送にて、お客様への手洗い・マスク着用および車内換気、混雑時間帯を避けたご利用への協力依頼を実施しています。



## ◇ 主要駅混雑状況の提供

車内中吊りおよび当社ホームページにおいて主要駅における混雑状況を提供しております。お客様が時差出勤など混雑時間帯を避けてご乗車いただく際にご活用いただけるよう情報提供に努めています。



# 情報提供の充実

## ◇ 情報提供手段の拡充

当社では、お客様への情報提供も安全の一部との認識のもと、情報提供の強化・充実に継続して取り組んでいます。2019年度には運行情報WEBサイトのリニューアルや列車走行位置情報の多言語化を実施しました。さらに車内放送においてタブレットによる多言語放送の開始および京成上野駅、日暮里駅、青砥駅、京成高砂駅、押上駅、空港第2ビル駅、成田空港駅へ多言語翻訳放送装置を導入しました。

その他、京成アプリのバージョンアップを行い、運転見合わせ・遅延発生区間の表示や車両・駅の詳細情報の拡充を図っています。



## ◇ スカイライナー担当車掌に対しポケットークの導入

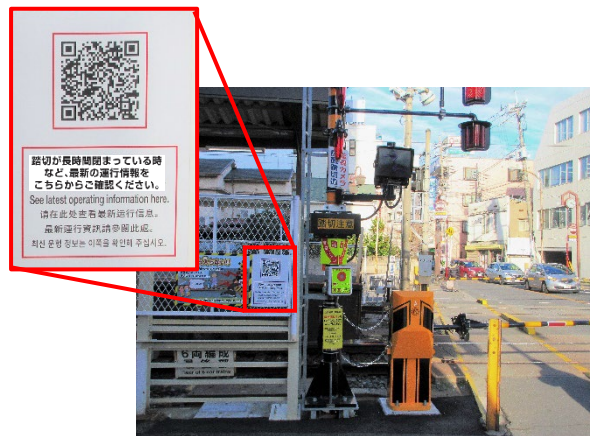
2020年3月より74言語対応の携帯型自動音声翻訳機「POKETALK® (ポケットーク) S」をスカイライナー担当車掌向けに計45台導入しました。これによりスカイライナーをご利用される訪日外国人のお客様へ多言語でのご案内強化を図っています。



## ◇ 踏切長時間遮断への対応

事故・災害等の発生によって踏切が長時間遮断された際に、踏切を待っている方が列車の運行状況を確認できるように踏切近くに看板を設置しています。看板に記載されているQRコードを読み取ることで京成電鉄の運行情報案内ページにリンクし、最新の運行情報をご覧いただけます。

2019年12月より順次設置を始め、主要踏切93か所に設置しています。



## ◇ 鉄道運行を支える様々な職場をご紹介します

当社広報誌「京成らいいん」の「KEISEI JOBS まっすぐ、お客様のために」のコーナーで鉄道の安全・安定運行を支える様々な職場を紹介しています。各職場の職員が、お客様に安全に安心してご利用いただくためにどのような業務に取り組んでいるか、どのような想いを持っているか、について紹介しております。ぜひご一読ください。



# 輸送の安全の実態

鉄道事故等は、以下のように分類されています。

## ◆鉄道の事故

- ・ 鉄道運転事故：列車衝突事故、列車脱線事故、列車火災事故、踏切障害事故、鉄道人身障害事故、鉄道物損事故
- ・ 輸送障害：鉄道による輸送に障害を生じた事態であって、鉄道運転事故以外のもの
- ・ 電気事故

## ◆災害

- ◆インシデント：鉄道運転事故が発生するおそれがあると認められる事態

## ◇ 鉄道事故等の発生状況

### 鉄道運転事故

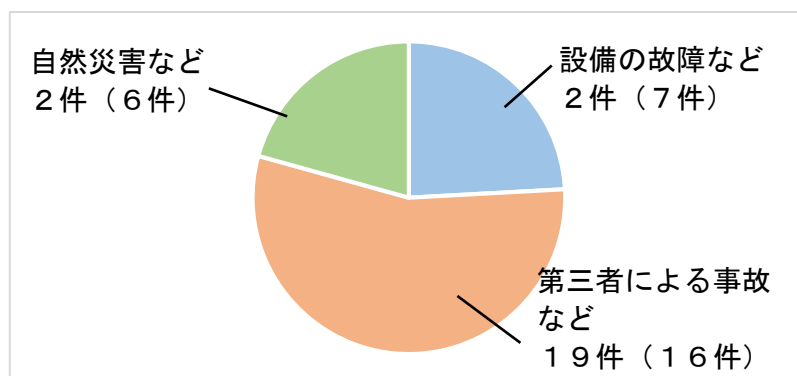
2020年度に発生した鉄道運転事故は、列車脱線事故が1件、鉄道人身障害事故が3件発生しました。原因別の発生件数は、以下の通りです。(事故は省令に基づき、国土交通省に届出を行った鉄道事故の件数です。)

- ・ 列車脱線事故…運輸安全委員会にて調査中：1件
- ・ 鉄道人身障害事故…軌道転落：1件  
ホーム上でふらつき列車と接触：1件  
軌道内人立ち入り：1件

### ◇ 輸送障害

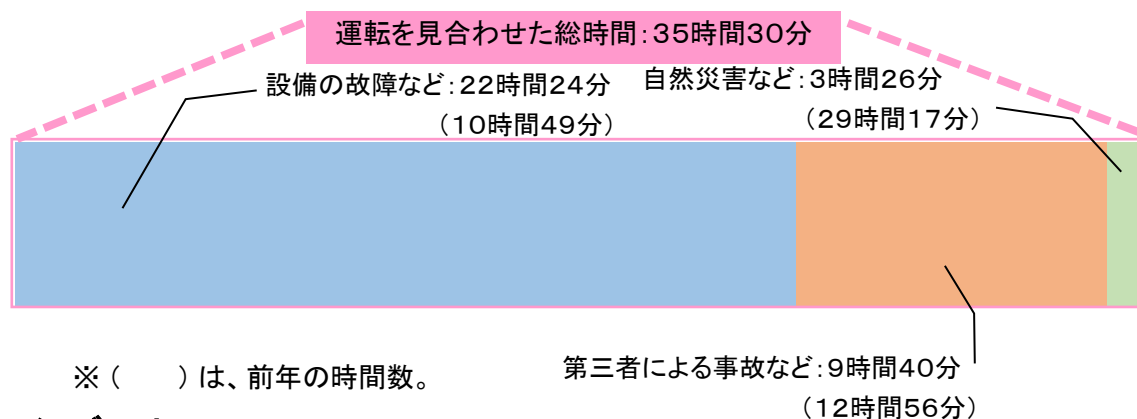
2020年度に発生した輸送障害は、6件減少し、23件です。原因別の発生件数は次の通りです。

※( )は、前年度の発生件数。



### ◇ 運転を見合わせた時間

鉄道運転事故、輸送障害に伴い、2020年度に運転を見合わせた時間を上記の原因別で分けると以下の通りです。



※( )は、前年の時間数。

### ◇ インシデント

2020年度は発生しませんでした。

## ◇ 主な鉄道事故等と再発防止策について

### 青砥駅構内列車脱線事故について

発生日時：2020年6月12日

発生場所：青砥駅構内（上り線）

概況：

第1022N列車（普通 羽田空港第1・第2ターミナル行 8両編成）は青砥駅上り方面1番線進入時、前6両がホームに進入した時点で大きな衝撃により、緊急停止しました。担当運転士が現場に急行すると7両目の台車の脱線・亀裂およびパンタグラフの破損を認め、その旨を運輸指令に報告、運輸指令は押上線 八広～青砥駅間の運転を見合わせました。当該車両に乗車していたお客様約100名はホームに進入していた前6両より降車し、負傷者はありませんでした。その後、運輸安全委員会による調査のため同区間を運転見合わせとし、調査終了後の復旧作業のため21時以降は、京成本線 千住大橋～市川真間駅間・押上線 八広～青砥駅間・成田スカイアクセス線 京成高砂～新鎌ヶ谷駅間にて運転を見合わせました。そして翌13日7時35分より全線にて運転を再開しました。

原因：運輸安全委員会により調査中

対策：

応急対策

- ・6月13日 全車両の台車の目視点検を実施、異常がないことを確認しました。
- ・6月16～19日 同一構造台車（3700形のうち128台車）の詳細検査（磁粉探傷検査）を実施し、異常がないことを確認しました。
- ・6月20日～7月15日 その他の台車（1, 116台車）についても詳細検査（磁粉探傷検査）を実施し、異常なしを確認しました。

恒久対策

運輸安全委員会による調査結果をもって決定します。





# 人にやさしい鉄道を目指して

## ◇ サービス介助士

当社では2005年度からサービス介助士の資格取得を推進しており、2020年度末現在、資格取得者が531名（駅全体の91.7%）となり、京成線各駅に配置しているほか、乗務員でも資格取得者の増加に努めています。資格取得者配置駅には、お客様から見えやすい場所に「安心のサービス介助士マーク」を掲出しています。



## ◇ AED（自動体外式除細動器）設置

お客様に安心して鉄道をご利用いただくため、AED（自動体外式除細動器）を京成線全駅への設置が完了しています。また、スカイライナーには全編成に搭載しています。



## ◇ 施設のバリアフリー化

ご高齢のお客様やお身体の不自由なお客様をはじめ全てのお客様に快適に駅をご利用いただけるよう、エレベーター・スロープ・多機能トイレの設置等を行い、駅のバリアフリー化を進めています。2020年度は菅野駅のバリアフリー化工事に引き続き取り組んでおります。

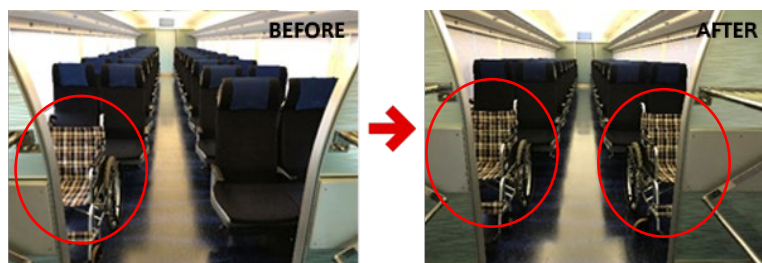
当社では、国が指定する整備対象駅（一日当たりの乗降客数が3千人以上の駅など）58駅中、2020年度末現在で56駅において1ルート以上の移動円滑化された経路を確保しています。



## ◇ 車両のバリアフリー化

### ①スカイライナー（AE形）車両への車椅子スペースの増設

スカイライナー（AE形）車両について、現在5号車に1箇所設置している車椅子スペースを2箇所に増設しました。



### ②通勤型車両へのスタンションポールの増設

3400形、3700形について、立席のお客様の支えとなり、着席しているお客様が立つ際に利用することもできるスタンションポールの座席中央部分への増設を行い、2019年8月に完了しました。



## 沿線地域との交流

### 宗吾車両基地けいせいキッズデーの開催

2020年10月に日頃よりご乗車いただいている沿線の皆様への感謝を込め、宗吾車両基地にてキッズフェスタを開催し、約800名の親子にご参加いただきました。車体吊り上げ見学や特殊車両乗車体験などを通して、沿線の皆様と直接触れ合い、鉄道への理解を深めていただきました。



### 踏切道内高齢者取り残され対策

踏切道内に高齢者が取り残される事象が相次いで発生したことを受け、2020年度秋の交通安全運動期間において、「踏切かわら版」を作成し、沿線の自治体や町内会、福祉協議会等の皆様にご協力いただき、公共施設等に掲示しました。



### 電車安全教室の実施

沿線の小学生を対象に「列車の安全運行に関するルールやマナー」について寸劇を交えながら伝える電車安全教室を実施しています。



### 踏切啓発活動の実施

全国交通安全運動期間中に、踏切非常ボタン体験や踏切啓発ティッシュの配布を沿線の警察署と合同で実施しています。



## Topics

### 【和洋女子大学との連携による国府台駅トイレリニューアル】

トイレのリニューアル工事を実施するにあたり、国府台駅を最寄駅とする和洋女子大学の学生による投票でデザインを選定しました。この取り組みは2019年2月に和洋女子大学と京成電鉄との間で締結した、連携・協力に関する包括協定に基づき実施したものです。合計548票の投票により、当社が提案した3案の中から、「明るく楽しい気分になるトイレ」をコンセプトとしたカラフルな部材を用いた内装デザインが選定されました。当社では、今後も地域社会との連携を強化し、沿線地域の持続的発展を目指してまいります。





# お客様へのお願い

鉄道の安全運行はお客様のご理解、ご協力により支えられています。

## ◇ 列車妨害行為の禁止

線路上に石を置く、列車に物を投げる、落書きをすることや、いたずらに踏切非常ボタンを押すことは犯罪行為です。絶対に行わないでください。また、これらの行為を目撃された場合は、最寄りの駅または警察にお知らせください。



## ◇ 踏切でのお願い

踏切を渡る際には無理をせず、警報機が鳴ったら渡らないようお願いいたします。また、列車を緊急に止める必要があると判断したときは、踏切非常ボタンを押してください。この際、列車が停止したことを確認せずに踏切内へ入ることは大変危険ですので、踏切内へは入らないでください。



## ◇ ながら歩きについて

近年、携帯電話を操作しながらの歩行やイヤホンをつけながらホームの端を歩行するお客様が増加しています。駅構内で歩きながらの携帯電話・ゲーム機等の使用は列車との接触、ホームからの転落、周囲のお客様との衝突等に繋がるおそれがありますので、絶対におやめください。



## ◇ 駅非常停止ボタン装置について

駅構内において、列車を緊急に止める必要があると判断したときは、「非常停止ボタン」を押し、係員にお知らせください。その際、線路へは決して降りないようお願いいたします。



## ◇ 列車内でのお願い

列車内で不審者・不審物等を発見された場合は、近寄らず、直ちに駅係員または乗務員までお知らせください。また、非常の場合にも車内の「非常通報ボタン」を押し、乗務員にお知らせください。またお子様やお荷物が戸袋に引き込まれる事故が多く発生しておりますので、ご注意ください。



## ◇ 声かけサポート運動について

鉄道をご利用になるお客様が安全・安心にご利用いただくため、「声かけ・サポート運動」を実施しています。駅ホームから線路上へ転落する事故を防止するため、視覚に障害をお持ちのお客様へは、駅係員よりお声かけをし、乗車および降車の誘導案内を実施することがあります。ご利用のお客様におかれましても、お困りの方に対してお声かけ・サポートのご協力をお願いします。



## 安全報告書のご意見募集

京成グループをご利用いただいた際に、お客様が感じた様々なことがらをお聞かせいただき、さらなる安全とサービスの向上を図るために「ご意見・ご要望箱」を開設しています。

「ご利用上の注意」をご確認のうえ、下記の専用メールアドレスからご送信ください。

なお、安全報告書に関するご意見やご感想につきましても、今後の安全に関する取組み及び報告書の内容に活かしてまいりたいと考えていますので、ぜひお聞かせくださいますようお願いいたします。

### ご利用上の注意

- ご送付頂きましたメールの内容は平日の営業日に確認させていただきます。また、回答させていただく場合、送付いただきました内容につきまして、担当部署において事実確認・調査を行うため、ご回答までにお時間を頂戴することがあります。
- 弊社より送付した電子メールの内容を、弊社の許可無く転用・二次使用することは固くお断りします。
- 頂戴したメールに記載されたお客様の個人情報は、当社「[個人情報保護方針](#)」に従い、お客様との連絡以外の目的では、使用いたしません。

E-Mailアドレス >> [bm@keisei.jp](mailto:bm@keisei.jp)

メモ

Dotted lines for writing notes.



編集・発行：京成電鉄株式会社 鉄道本部 安全推進部 安全推進担当  
2021年8月発行